

1 はじめに

今年度は令和5年12月に、生徒、保護者、教職員による「令和5年度学校評価アンケート」を実施いたしました。

このアンケートは、今年度の教育活動について、本校のグランドデザインの達成状況や達成に向けた取組の適切さ等を検証するとともに、次年度への改善を図るために、学校評価として実施したものです。

今回のアンケート結果を踏まえ、本校の課題を確認するとともに、学校運営協議会において、学校自己評価を実施いたしました。

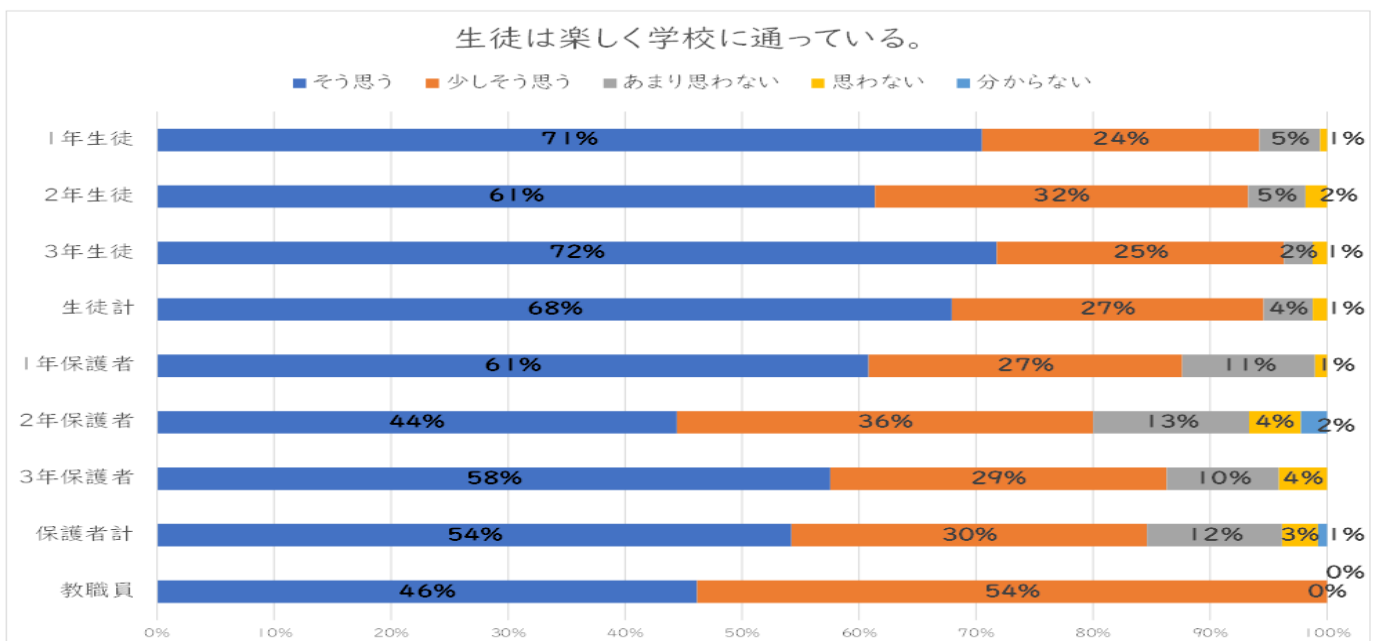
2 学校評価アンケート結果及び自己評価

まず、令和5年度の学校評価アンケートにおいて、生徒アンケート結果は、「そう思う・少し思う」が高い割合でキープしていますが、「あまり思わない・思わない」の割合が、昨年度に比べて増加しました。どの学年においても、本校に通う多くの生徒が、楽しく、目標に向かい、目的を持って充実した学校生活を送れるようにしていきたいと考えております。

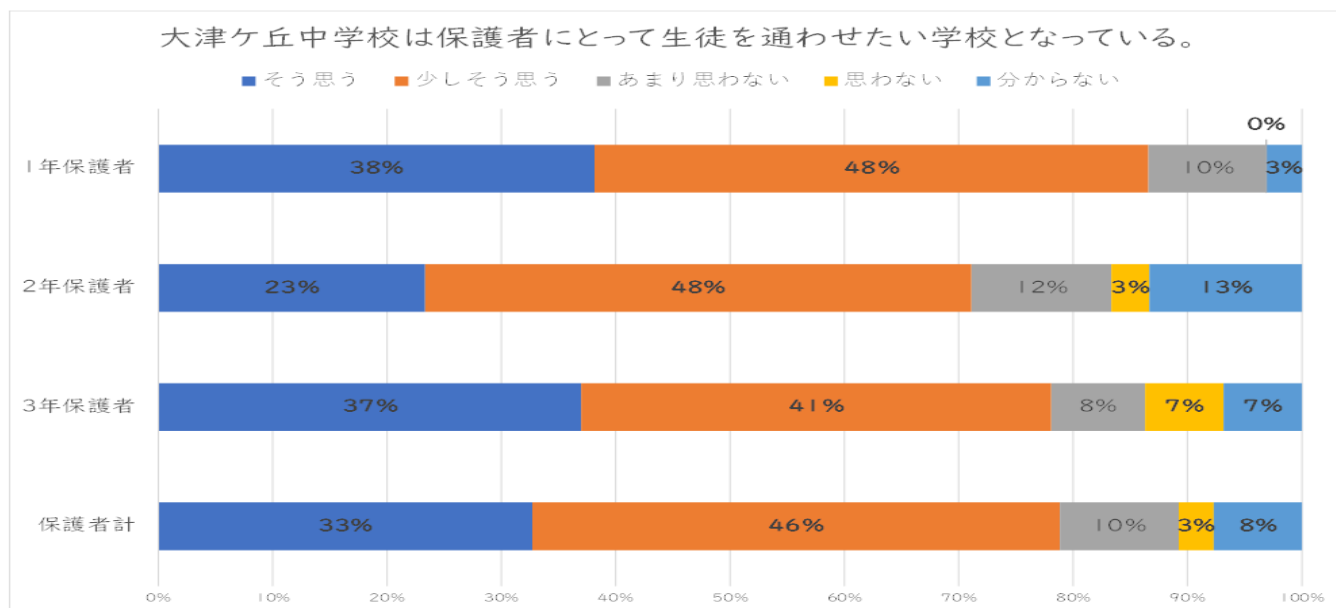
また、保護者アンケート結果は、「わからない」という回答が多くあるため、教職員による学校ホームページの更新、各種たより等により、学校生活（授業の様子、学校の対応等）について積極的に広報活動を充実させたいと考えております。

(1) 目指す学校像について

■設問1-a「生徒は楽しく学校に通っている。」



■設問 1 - b 「大津ヶ丘中学校は保護者にとって生徒を通わせたい学校となっている。」



1 - a 「生徒は楽しく学校に通っている。」については、生徒・保護者・教職員のすべてにおいて、「そう思う」「少しそう思う」を合算した肯定的評価が93%を超え、特に生徒は約95%を超える結果となりました。昨年度よりも、3%増加しました。

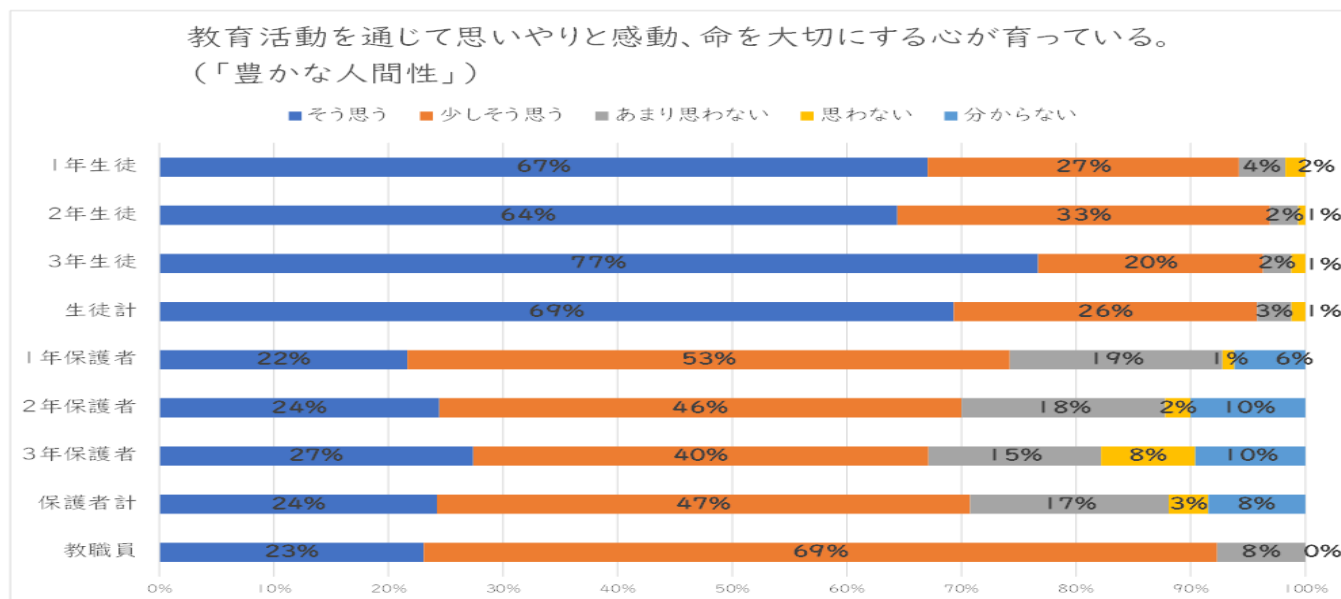
生徒は、学校生活の中で、成功や失敗など多くの経験をしながら、9割以上の生徒が楽しい学校生活を送っていると考えられます。

一方、生徒の約5%は「あまり思わない」「思わない」を合算した否定的評価となっています。学校に登校することができない生徒、教室に入ることができない生徒、学校が楽しくないという生徒が依然としていることを真摯に受け止め、学校はすべての生徒において、「安全で楽しく、自己実現ができる場」であることを目指し、個に応じた教育活動の改善等を図ります。

また、1 - b 「大津ヶ丘中学校は保護者にとって生徒を通わせたい学校となっている。」については、保護者の肯定的意見が昨年度比で約4%減少しました。約8割近くの保護者の方にとって「通わせたい学校」という結果になっていますが、本校の指導に対する保護者の疑問や不満により、具体的な否定的意見もあることから、今年度同様、丁寧に学校の方針を説明し、改善すべき点については解決策を検討していきます。

(2) 豊かな人間性（思いやりと感動、命の大切さ）について

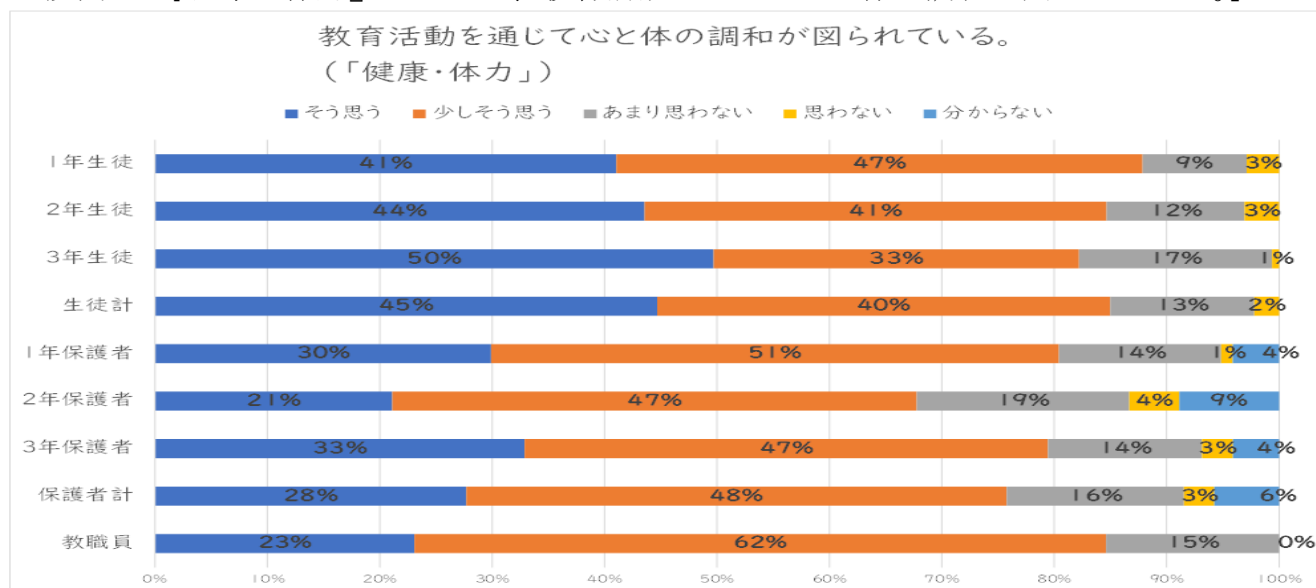
■設問2 『豊かな人間性』について、教育活動を通じて思いやりと感動、命を大切にしている心がある。』



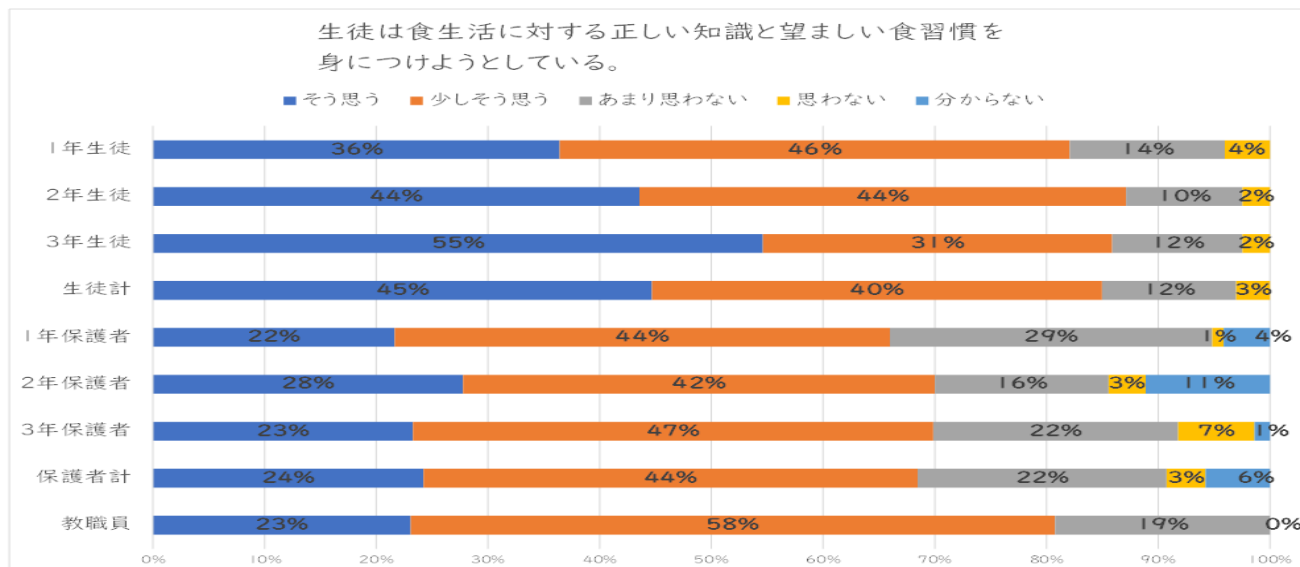
本校の学校目標である「未来を切り拓く人間力の育成」を目指し、学校生活の中でも道徳教育や体験活動を中心に、豊かな心を育てています。結果を見ると、生徒の約95%以上が「思いやりと感動、命を大切にしている心」が身につけてきていると回答しています。一方、保護者の方の回答は約71%にとどまっています。生徒・保護者ともに昨年度比で減少が見られています。現在の学校目標に変更してから3年目を迎え、道徳教育、体験活動の成果がでていたところですが、今回の結果を受け、改善すべき点については解決策を検討していきます。

(3) (4) 健康・体力（コーディネーション「心と体を整える」）について

■設問3 『健康・体力』について、教育活動を通じて心と体の調和が図られている。』



■設問4 「生徒は食生活に対する正しい知識と望ましい食習慣を身につけようとしている。」

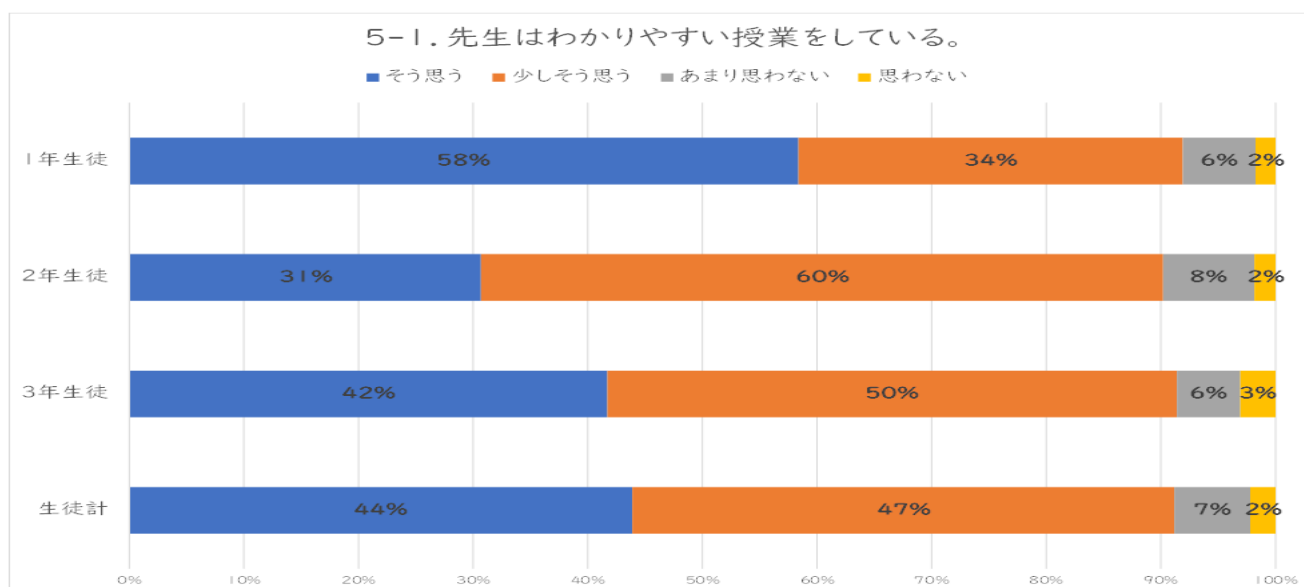


設問4に関しましては、今年度より感染症予防についての設問から、食生活に関する設問に変更いたしました。

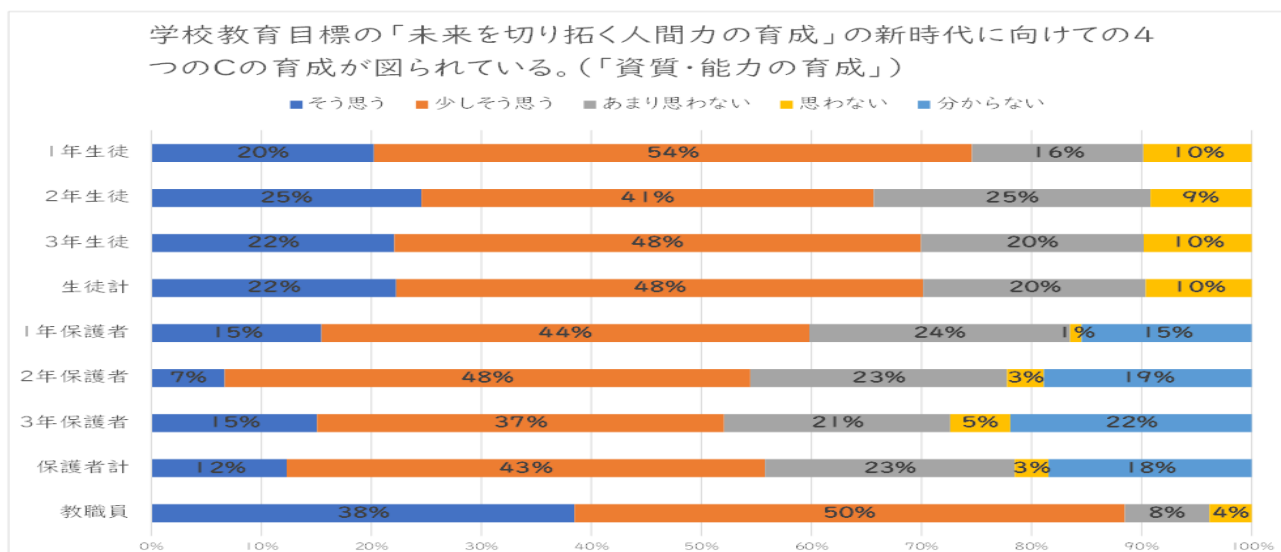
生徒・教職員ともに80%以上が「正しい知識と望ましい食習慣を身につけようとしている」と回答しています。しかし、給食様子を見ていると、アレルギー等ではなく、好き嫌いから一切手を付けずに、残す生徒が見られます。残渣も多い現状があります。学校給食は、今の生徒に必要な栄養素やエネルギー量を計算して作られています。また、保健だよりや家庭科や保健体育などの授業の中でも食生活について学習します。好き嫌いをせずに、バランスよく食べるように声掛けをしていきます。

(5) (6) 資質・能力の育成【新時代に向けて4つのCの育成】

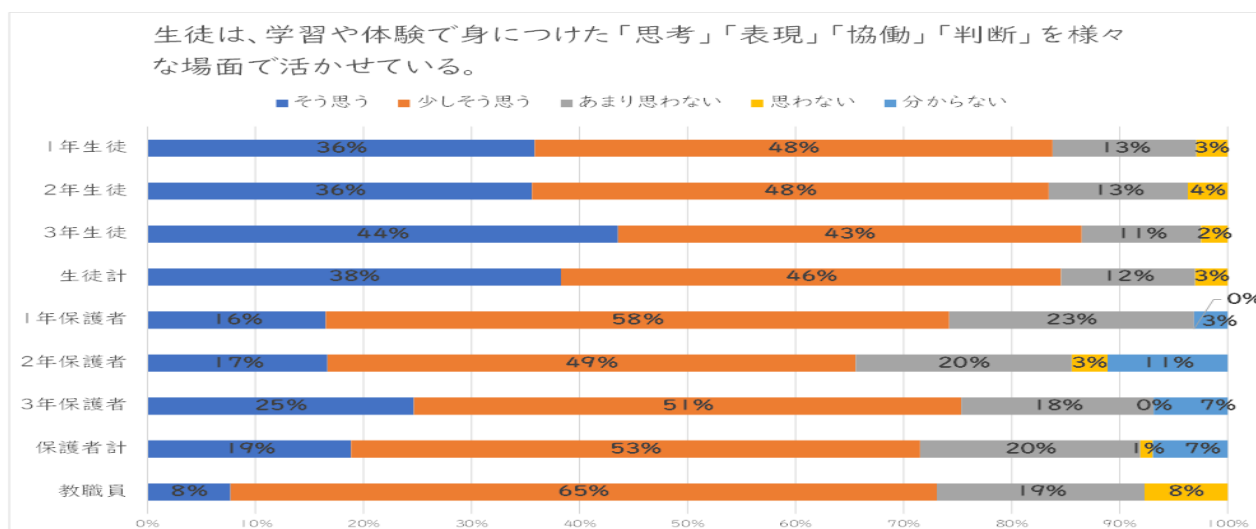
■設問5-1 「教員の授業はわかりやすい。」



■設問5-2 『資質・能力の育成』について、学校教育目標の『未来を切り拓く人間力の育成』の新時代に向けての4つのCの育成が図られている。」



■設問6 「生徒は、学習や体験で身につけた『思考』『表現』『協働』『判断』を様々な場面で活かしている。」



学校目標については、昨年度より、現在の本校の状況と新時代に求められる力を鑑み、以下の4つの力を育成することとし、授業、学校行事、部活動等、すべての学校生活において、この4Cの育成を図ってきました。

- ・ Creativity(クリエイティビティ) 「自由で柔軟な発想を大切にしよう」
- ・ Communication(コミュニケーション) 「お互いの考えをしっかりと伝えあおう」
- ・ Collaboration(コラボレーション) 「みんなで力を合わせて問題を解決しよう」
- ・ Critical(クリティカル) thinking(シンキング) 「それで本当に良いのか慎重に考えよう」

設問5-1 「教員の授業はわかりやすい。」は、生徒の約91%が肯定的意見となっています。しかし、「わからない」・「わかりにくい」・「難しすぎる」などといった否定的な意見もいただいております。授業は、学校の教育活動の基盤であり、生徒、教職員、保護者の信頼関係の基礎となると考えています。今後も、生徒の実態に合わせ、学習指導要領に基づいたわ

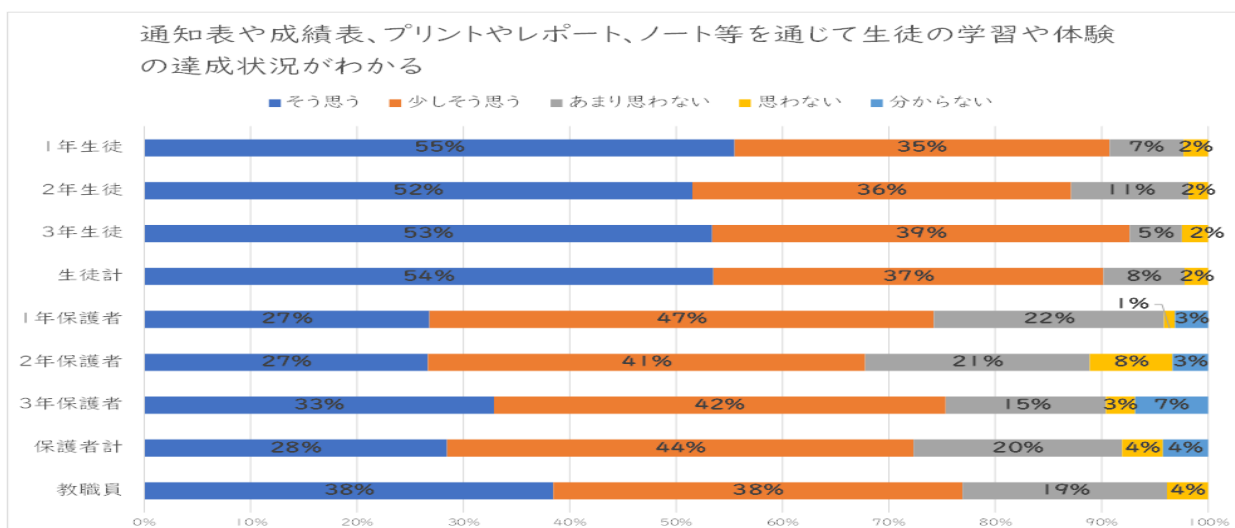
かりやすい授業に向けて改善を続けていきます。

設問5-2『資質・能力の育成』について、学校教育目標の『未来を切り拓く人間力の育成』の新時代に向けての4つのCの育成が図られている。」については、結果と見ると、昨年度より大幅に減少しました。教員は約88%が4つのCの育成について効果を感じていますが、生徒は約70%（10%減）、保護者は約55%（6%減）しか実感できていない結果となりました。今後、この「目に見えない学力」が身につくように、また生徒が実感し、普段の生活でその力が発揮できるよう取組を改善していきます。

また、設問6「生徒は、学習や体験で身につけた『思考』『表現』『協働』『判断』を様々な場面で活かしている。」については、生徒の「思考」「判断」「協働」「判断」を活かしていないという回答が教員で27%でした。これについては、全学年を通して、校外学習、林間学校、修学旅行等の旅行行事では、各係が中心となり、自ら目標やルールを決め、自分たちで声を掛け合いながら実施する場面を増やすなど、学校生活でこれらの力を活かす場面の設定を増加し、実感できるようにしていきます。

(7) 何が身についたか

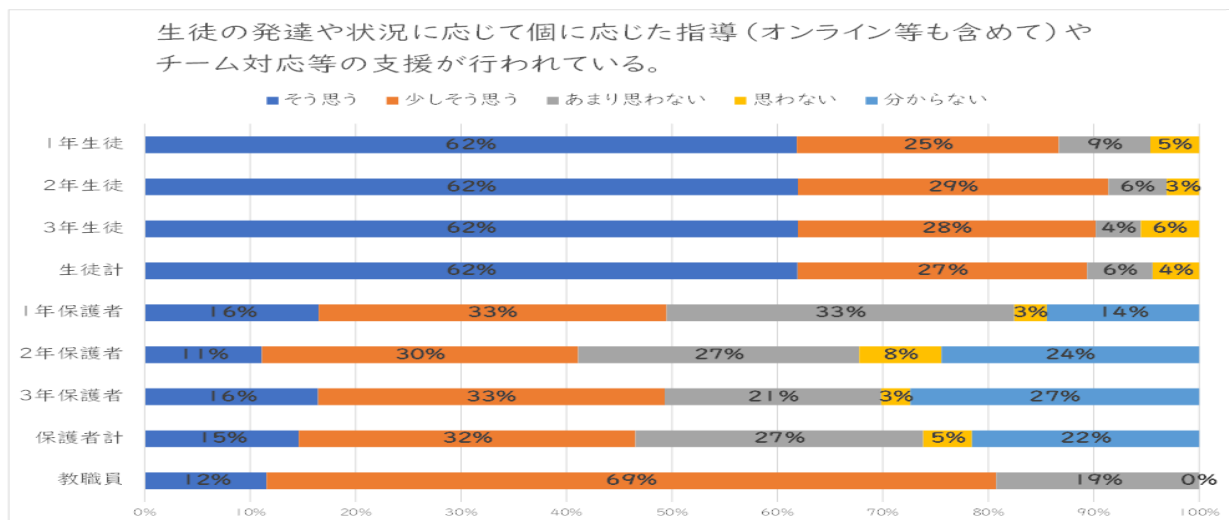
- 設問7「通知表や成績表、プリントやレポート、ノート等を通じて生徒の学習や体験の達成状況がわかる。」



昨年度から10～11月にかけて、全保護者・全生徒を対象とした3者面談を実施しております。短文による所見ではなく、実際に3者で学校生活を振り返り、課題の確認、進路相談等を行い、その後の学校生活に活かしています。保護者・教職員ともに「わからない」という回答が多くみられています。教職員の取り組みから改善し、保護者へ伝わるように改善していきます。

(8) 生徒の発達をどのように支援するか。【配慮を必要とする生徒への指導】

■設問8 「生徒の発達や状況に応じて個に応じた指導（オンライン等も含めて）やチーム対応等の支援が行われている。」



個に応じたきめ細やかな指導とチームによる対応・支援については、生徒は約89%がそのような対応が行われていると回答したのに対し、保護者は約47%にとどまり、否定的意見が、約32%になっています。また、ご意見も数件伺っております。

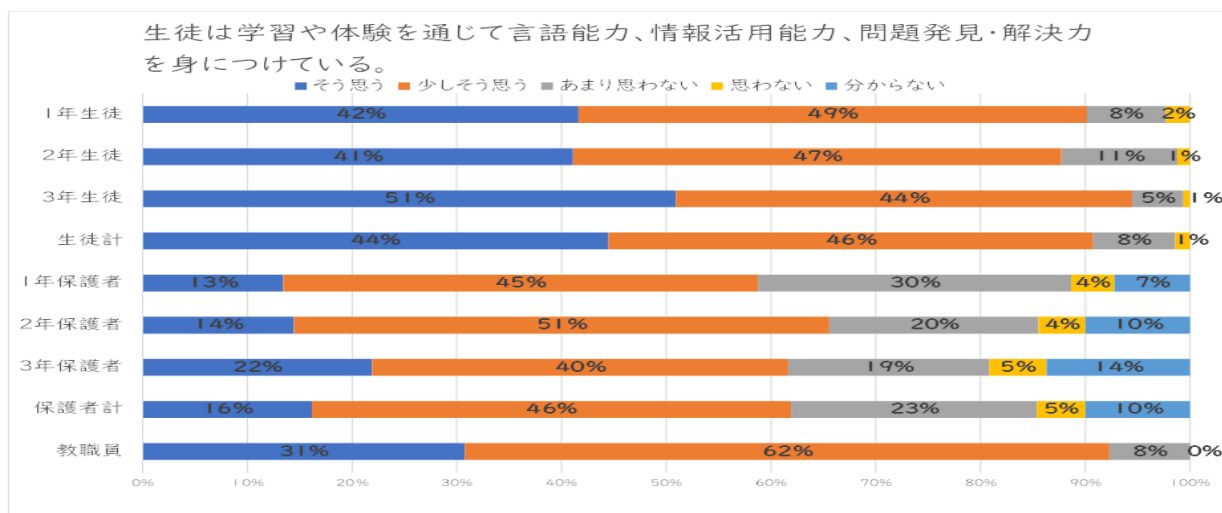
不登校支援については、教室への復帰を目指す生徒を個別に支援するセカンドルームに常駐の職員を配置し、登校から下校まで一貫した指導を行っています。

一方、オンラインによる授業配信については、オンラインの配信希望がある生徒がいる学級では実施しております。ただ、体育や技術等の実技教科ではオンライン配信を実施できないことや、映像が見づらいなどといった声もありました。

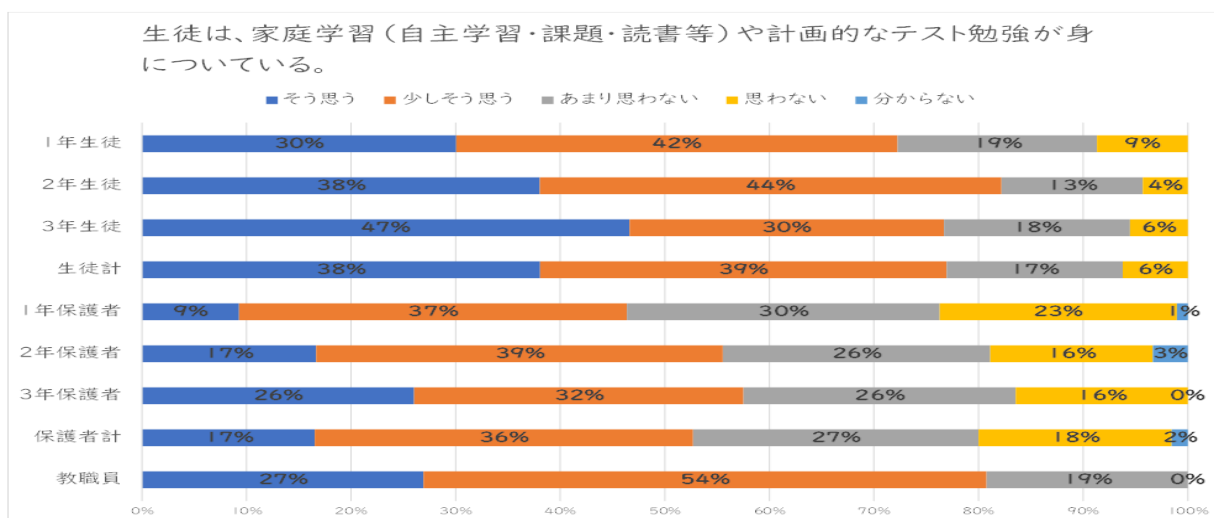
また、特別な支援を要する生徒や、成績不振の生徒に対する個に応じた指導については、保護者の方から複数の改善に関する要望がありました。実際に基礎学力が十分に身につけていない生徒がいることから、再度、次年度に向け、学力向上に向けた新たな対策を検討してまいります。

(9) (10) 何を学ぶのか。【教育課程の編成】

■設問9 「生徒は学習や体験を通じて言語能力、情報活用能力、問題発見・解決力を身につけている。」



■設問10 「生徒は、家庭学習（自主学習・課題・読書等）や計画的なテスト勉強が身についている。」



設問9 「生徒は学習や体験を通じて言語能力、情報活用能力、問題発見・解決力を身につけている。」については、生徒及び教員の約90%以上が身についたと回答していますが、保護者は約62%にとどまっています。校内での学習については、改善が見られるものの、生徒が普段の生活でその力を発揮できていないと考えられます。

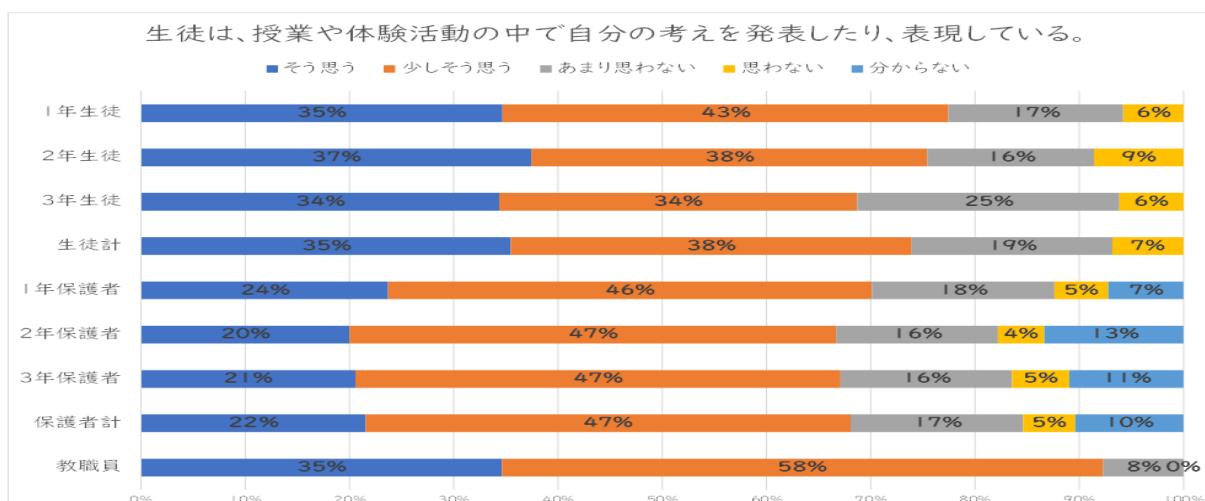
設問10 「生徒は、家庭学習（自主学習・課題・読書等）や計画的なテスト勉強が身についている。」については、身についていると回答した割合が、生徒が約77%に対し、保護者は約53%となっており、生徒と保護者にかなり開きがあります。学校においては、定期テスト前の学習計画表等を利用した家庭学習の促し、実施いたしました。また、提出物については、提出期限や内容について、多くの教科で細やかに指導を行っています。

家庭学習については、各自で目標と毎日家庭学習を行う時間を設定し、その時間の中で、宿題（学校での学習内容の深化）と自主学習（苦手教科、苦手分野の克服、受験勉強）のバランスが大切になってきます。

また、どちらにおいても根底に学習意欲の向上が必要です。学習意欲が向上するよう、学校でも課題や定期テストや単元テストのあり方について検討を行います。

(11) どのように学ぶのか。【教育課程の実施】

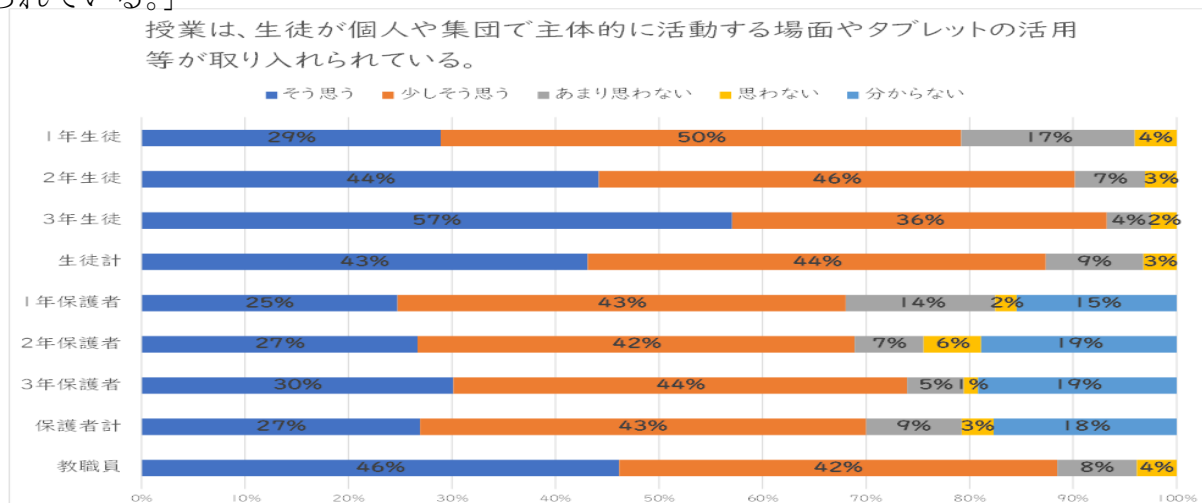
■設問11 「生徒は、授業や体験活動の中で自分の考えを発表したり、表現している。」



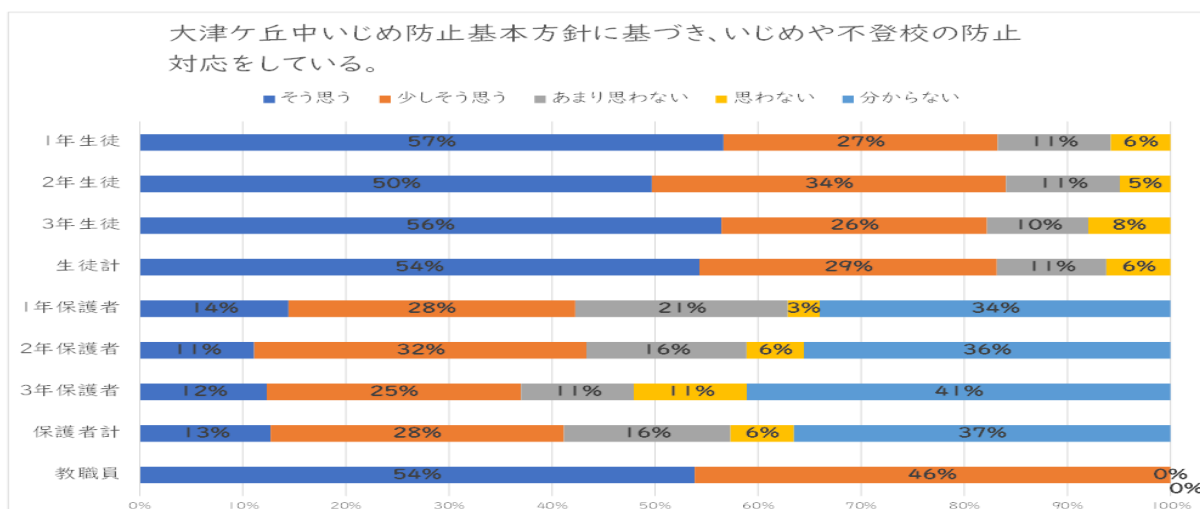
教員は93%以上が授業や体験活動で発表や表現する場を設定していると考えているのに対し、生徒は約73%、保護者は69%にとどまっています。保護者の肯定的な意見が増加しているものの、教職員との開きがあることが課題となります。今年度も、学活や総合的な学習の時間においても表現活動を多く取り入れ、1学年では職業調べの発表、2学年では林間学校、職場体験の活動報告、3学年では修学旅行の事後学習でホームページの作成などに取り組みました。しかし、さらなる改善が必要と考えられます。来年度はさらに各教科の授業でも、生徒が自分の考えを表現し、伝える課題や場面づくりに力を入れて取り組む必要があると考えます。

(12) (13) (14) 実施するために何が必要か。【指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働】

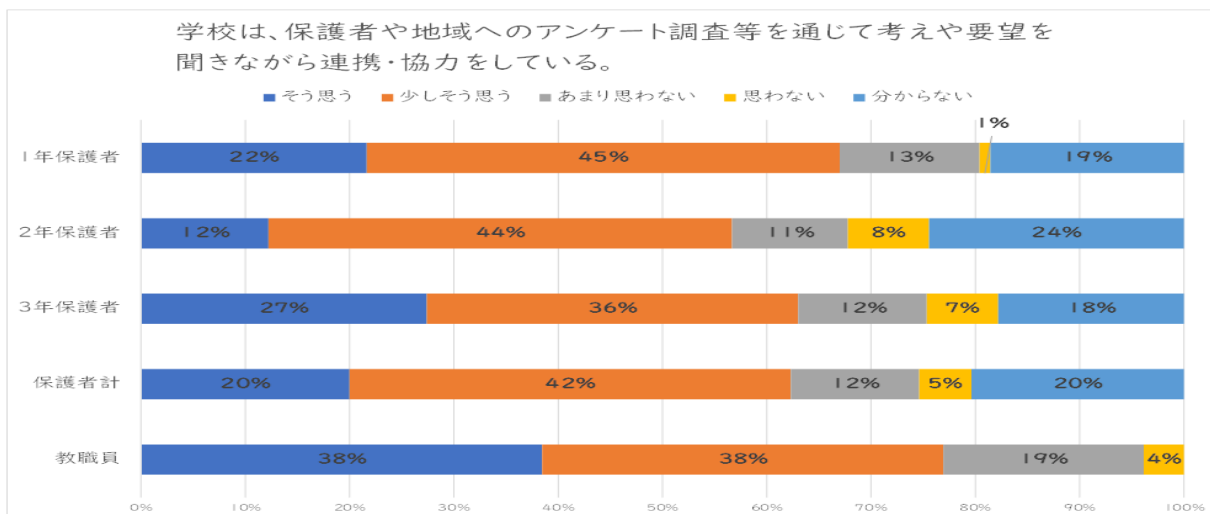
■設問12 「授業は、生徒が個人や集団で主体的に活動する場面やタブレットの活用等が取り入れられている。」



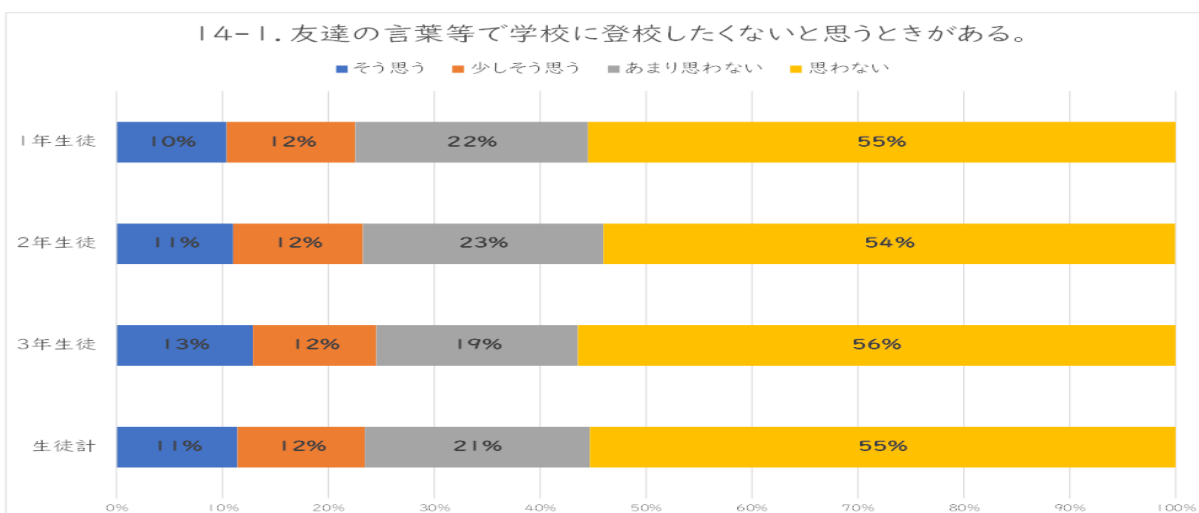
■設問13 「大津ヶ丘中いじめ防止基本方針に基づき、いじめや不登校の防止・対応をしている。」



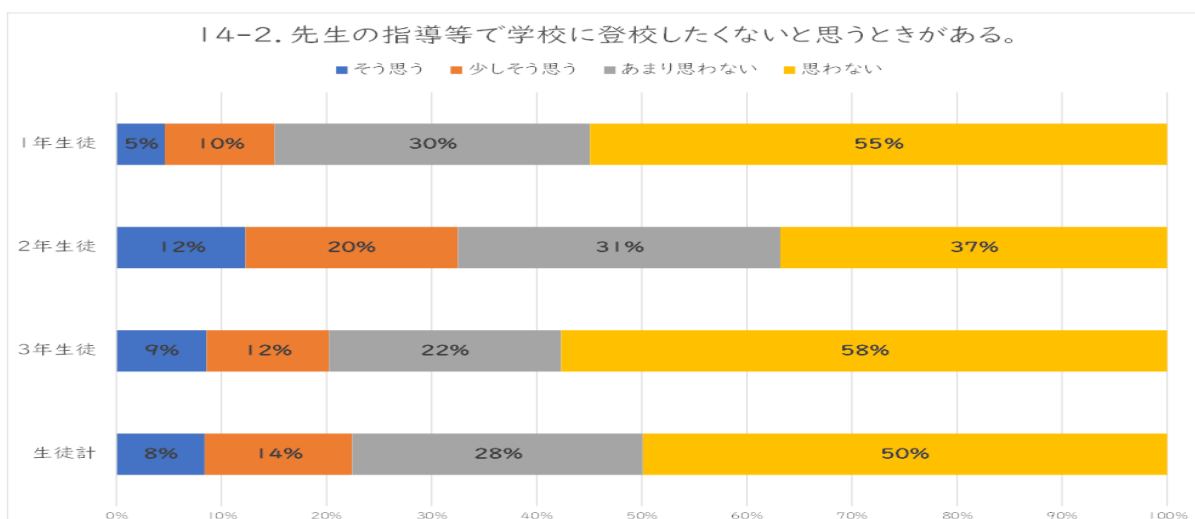
■設問14-1 「学校は、保護者や地域へのアンケート調査等を通じて考えや要望を聞きながら、連携・協力をしている。」



■設問14-2 「友達の言葉等で学校に登校したくないと思うときがある。」



■設問14-3 「先生の指導等で学校に登校したくないと思うときがある。」



設問12「授業は、生徒が個人や集団で主体的に活動する場面やタブレットの活用等が取り入れられている。」については、生徒は約87%、教員は約88%以上が肯定的であるのに対し、保護者は昨年度よりも増加しているものの、約70%にとどまりました。

朝の会、定期テスト、授業、クラス活動において、主体的に取り組む活動やオンラインを活用した取組は広く行われるようになっており、chromebookの使用頻度も高くなっています。chromebookについては、学校内の使用だけでなく、生徒が学習用に自宅に持ち帰り、自主学习としてオンラインドリル（ミライシード）等を使用することも可能ですので、自宅での使用のルールを確認いただき、ぜひ御家庭でも活用できるようにしたいと考えております。

設問13「大津ヶ丘中いじめ防止基本方針に基づき、いじめや不登校の防止・対応をしている。」については、生徒は約83%、教員は100%が取り組んでいると回答したのに対し保護者の方は約41%にとどまり、分からないが37%を超えてしまいました。学校では、日頃から、いじめのない学校を構築するため、「予防」「対応」「相談」「連携」「組織」「啓発」に努めています。いじめについては、教職員や保護者の目の届きにくいところで発生することから、日常の学校生活での観察だけでなく、学級担任を始め相談しやすい教職員へ相談でき、毎日の生活ノート、年3回のいじめアンケート調査等から予見及び早期発見に努めています。また、外部の相談機関も周知しています。いじめが予見されたり、発生した場合には、事情確認等を実施し、早期解決に努めています。最近ではインターネットを通じて、人間関係のトラブルが増加していることから、生徒には学級指導を行い、5月には外部講師を学校に招き、保護者対象の情報モラル教育を実施いたしました。

設問14-1「学校は、保護者や地域へのアンケート調査等を通じて考えや要望を聞きながら、連携・協力をしている。」については、今年度も、保護者の考えや要望を広くいただき、学校運営に反映させるため、授業参観を3回に増やし、第1回の授業参観を土曜日に設定するとともに、授業参観や保護者会等、保護者が来校した学校行事後にすくすくメールにて保護者アンケートを実施いたしました。

本校では、学校教育、家庭教育、社会教育を個別に捉えるのではなく「共育」を目指し、学校、家庭、地域の役割分担と協働を目指しています。今年度は、PTAには、9月、12月、2月（予定）の年3回の環境整備の他、輝沼祭においては受付や保護者入替の誘導等も担当していただきました。また、地域との協働については、今年度よりコミュニティースクールに発足しました。大きな取組み成果としては、2学年（当時190名）で行われた職場体験の受入れ事業者（42事業所）を確保していただきました。これから先、さらに地域とどのような共同ができるか検討しています。

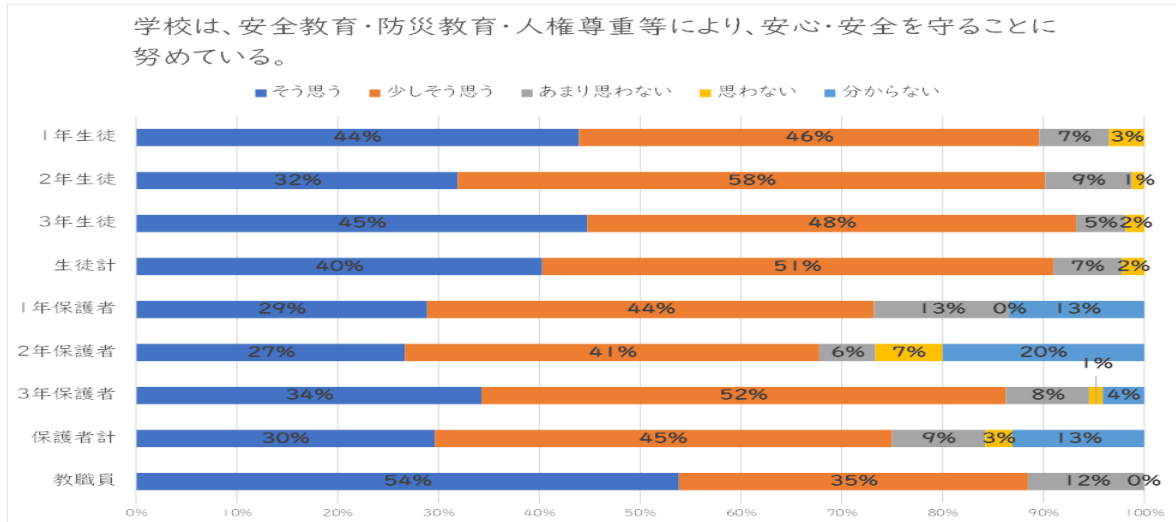
設問14-2「友達の言葉等で学校に登校したくないと思うときがある。」については、約23%の生徒が登校したくないことがあると回答しています。友人関係のトラブルについては、未然防止とともに、日頃から生徒とのコミュニケーションを大切にするとともに、教育相談やアンケートを実施し、早期発見、早期解決に努めます。

設問14-3「先生の指導等で学校に登校したくないと思うときがある。」については、約22%の生徒が教員の指導等により登校したくないことがあると回答しています。教員の指導が不適切と考えられ、生徒にストレスを与えるケースがあったことから、教職員の意識改革を

行っております。また、学校生活の中で教員の言動に対し、生徒がストレスに感じていると申し出があったケースについては、直接管理職が生徒・保護者から話を聞き、改善を行う機会を設けています。

(15) 安心・安全を守る。

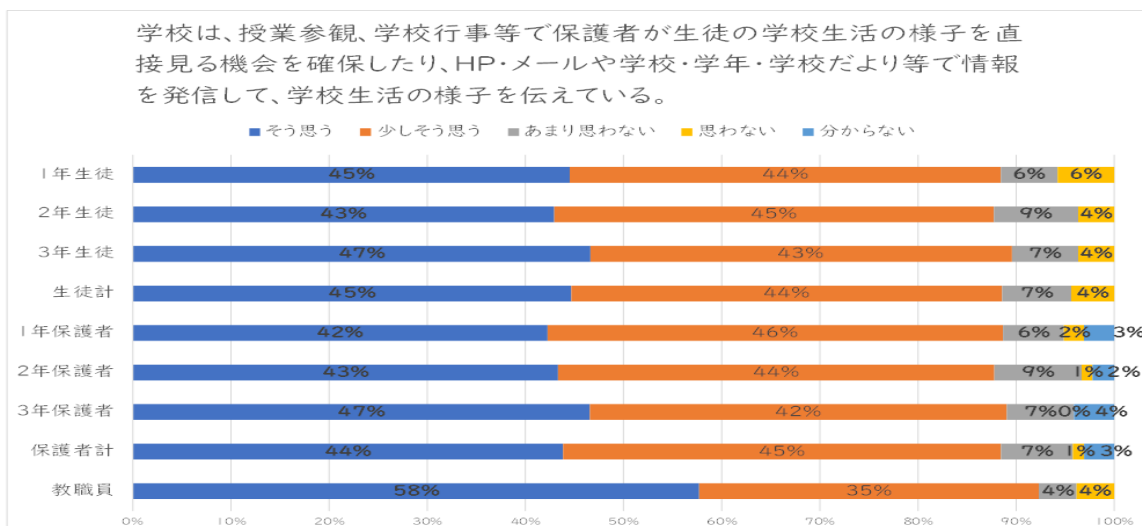
■設問15 「学校は、安全教育・防災教育・人権尊重等により、安心・安全を守ることに努めている。」



安全教育・防災教育については自分の命を自分で守る力の育成、人権尊重の観点からは自己有用感を感じることができる集団づくりを目指しています。本校では、インターネット上の人間関係のトラブルや心無い一言でトラブルになる事案が頻発していることから、様々な具体的な事例をもとにした一斉指導や学級指導などを行っております。

(16) 開かれた学校づくり

■設問16 「学校は、HP・メールや学校・学年だより等で情報を発信して、学校生活の様子を伝えている。」



生徒、保護者、教員すべてが88%以上の評価を得ていますが、昨年度よりも肯定的意見は減少しました。これは、個人情報の観点からホームページの更新が減少したことが原因と考えられます。不特定多数が閲覧できる学校ホームページの写真の掲載については、個人が特定さ

れないように配慮をしていることから、情報発信の在り方については、パスワードをかけるなど、今後も検討してまいります。